

各専門委員会・特別委員会における柔道MIND実行計画

総務委員会	各大会等において、礼節・品格・マナー・モラルが良く、他の模範となる団体・個人への表彰制度について検討し、柔道界における品位・品格の向上を図っていく。
大会事業委員会	※詳細別紙
広報委員会	(柔道における)礼節・品格・マナー・モラルなどの倫理観・規範について、「まいんど」などの印刷媒体、ホームページなどの電子媒体を通じて広く知らせ共有を図る。あわせて、各委員会及び選手、所属などにおける具体的な取り組みを紹介することにより、スローガンとしてのみならず、より実体のある活動となるよう広報を展開する。
審判委員会	<p>1) 柔道は「自他共栄」の理念のもとに、その修行が実践されるべきであることは言うまでもなく、自己を高めてくれる相手に対して尊厳の気持ちを礼によって表すことは、柔道人としての品格を正に示すことになる。従って、選手の試合場内と試合場外の境界線での礼や、開始線(付近)での礼については、従来通り節度ある礼法を審判員が、毅然とした態度で実践させる。</p> <p>2) 畳に上がった瞬間、不必要なアクションや相手を無視するような遅延行為をする選手が認められるが、試合は、選手自身の日常の自己研鑽が試されることとなるため、このような行為は柔道家にとっては不適切と言える。特に、日本を代表する選手の振る舞いは、柔道を愛好する少年少女の注目の的であり、模範とされることに異論を唱える者はいない。健全な柔道の普及・発展のためにも、審判委員会から強化委員会へ要望を出し、その上で、選手の義務を理解していない選手に対しては審判員が厳しく指導をしていく。</p> <p>3) 1)2)については、各試合における審判会議や、試合開会式での審判上の注意事項として、繰り返し、審判員、選手に啓蒙していく。</p>
教育普及委員会	<p>1. 活動報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道教室、競技者育成事業の講習会では、小、中学生、高校生への技術指導に加えて「精力善用」、「自他共栄」という柔道精神の周知に努めてきた。 ・また、指導者、保護者に対しても自らが礼節を重んじることや、マナー向上に向けて啓発活動を行ってきた。 ・柔道教室は18ヶ所、競技者育成事業は10ヶ所で実施した。 <p>2. 今後の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道教室は20ヶ所で実施予定。 ・教育普及委員会では全柔連柔道教室等への講師に対して知識、技術及び意識を共有する為の研修会を実施する。(27年度は2回予定) ・柔道の基本動作・受け身・礼法・形等を通じて、柔道精神やマナー・礼節など「柔道MIND」を確実に伝えるために派遣講師研修会等に於いて、講師の意思統一を引き続き図る。 ・柔道MINDプロジェクトを推し進めるために保護者、指導者と意見交換を引き続き行っていく。
国際委員会	<p>1. 前年度の取り組み</p> <p>(1) クリアファイル作成</p> <p>柔道MINDプロジェクトの一環として柔道MINDのクリアファイルを作成し、グランドスラム東京2014に参加した各国等に配布し、柔道MINDの啓発活動を行った。</p> <p>(2) 海外チームへの注意喚起</p> <p>海外チーム用に禁止事項(裸足で施設を歩かない、ゴミを捨てる等)をイラストで記した用紙を作成、通知した。</p> <p>2. 今年度の取り組み</p> <p>(1) 海外チームを対象とした柔道MINDの啓蒙活動</p> <p>柔道MINDのクリアファイルをグランドスラム東京等で海外チームに配布する。</p> <p>(2) 柔道MIND垂れ幕の掲示</p> <p>国際合宿や東京キャンプ、グランドスラム東京の練習会場等に柔道MINDの垂れ幕を掲示し、啓発活動を行う。</p> <p>(3) 全柔連HPを利用した海外への発信</p> <p>柔道に関する礼節・品格・マナー・モラルなどを取り上げた文献や事案があれば、それを英訳し全柔連ホームページに掲載する。</p>

医科学委員会	柔道事故(特に頭部外傷、頸椎損傷)予防の研究を引き続き行う。
コンプライアンス委員会	5月に作成した「暴力・体罰・セクハラ問題を学ぶためのガイドブック」を有効活用し、引き続き大会等で研修を実施していく。
強化委員会	<p>強化委員会では、昨年度同様に強化委員と強化選手に対して日頃の行動において礼節や品格を重視する旨を明記した承諾書に署名を行わせ、自覚ある考え・行動を推進していく。強化選手は、日本全国における柔道を志す子供達の目標となる存在であることから、競技における高いパフォーマンスだけではなく、発言内容や立ち振る舞いは殊更子供達に注目されている。したがって、畳の上だけではなく柔道衣を脱いだ時の社会生活においても、柔道家として礼節を重んじ、品格のある行動をし、マナーを守り、そしてモラルに対する意識が高くなければならないと考えている。</p> <p>1) 礼節について 挨拶・礼法(相手に対する敬意を態度として表すこと)の徹底。</p> <p>2) 品格について 指導者は暴力のない言葉や対話による指導をする。また、身だしなみについては、選手・指導者ともに遠征や合宿時には、適切な服装や振る舞いを徹底する。</p> <p>3) マナーについて 日常的に挨拶をすることを徹底させる。また、SNS講習会を開催し、強化選手としてのインターネット発信におけるマナーについて学んだ。</p> <p>4) モラルについて 法令遵守はもちろんのこと、選手(プレイヤー)を一番に考え公序良俗に反しない行動を徹底する。そして、自立した選手育成を目指していく。</p> <p>5) 今後の取り組み 上記を継続的に実践するとともに、今後は、試合における振る舞いにおいて、過剰なパフォーマンスを慎み、柔道精神に則った品格・品性のある行動を行うよう心掛けていく。さらにコーチ研修会を開催し、指導者自ら学びを深め自らを高めていく所存である。また強化選手に対しても強化合宿の際に講義等を実施し、常に柔道MINDに対する自覚を啓発していく。</p>
アスリート委員会	詳細別紙
指導者養成特別委員会	<p>指導者養成特別委員会では、平成26年度に引き続き、指導者養成における指導者の理想像は品位、品格、品性を備えた指導者であり、子ども達や選手を変えられることができるのは指導者であると考えている。そのための取り組みとして本年度に完全実施となる「全柔連公認柔道指導者資格制度の講習会(A,B,C)カリキュラムにおいて「礼節、品格、マナー、モラル」を理解し行動できる指導者を養成するための講習科目を設定している。具体的には以下のとおりである。</p> <p>柔道の特性、指導者の心構えの科目において、人間は、自主的に行動するためには、その前にしっかりした価値観と人格を獲得していなければならない。そして社会の一員として法令を遵守し倫理観を持った指導を行うことの重要性を考えていく。さらに相手を敬い相互に協力して物事を進めていくために必要な礼節、マナー、モラルについて学び実践するように努めていく。</p> <p>また、柔道の精神教育的機能、指導者の心構えの科目において、常に(どんなときでも、日本でも海外でも)ポジティブな態度で何事にも臨み、自信に満ち溢れた立ち居振る舞いのできる人間を育成する。品位・品格・品性を備えた柔道人の在り方を考えている。 そして柔道を通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する人材育成を目指している。</p> <p>柔道指導者として単に柔道技術を指導するのではなく世に有益な人材育成を考え「総合力」を高めることを念頭に置いている。目先の小さな変化や刺激、空気に揺るがず確信をもって進むために、常に学び続けることのできる指導者養成を目標にしている。</p> <p>上記の事柄は継続的に実践するとともに、確固たるものにするためには明確なビジョンを全ての柔道人に理解して頂くために常に広報活動や啓発活動を分かりやすく展開していく。さらに、毎年、社会、柔道界の現状を鑑みて講習カリキュラムの更新を随時行っていき新しい学びを構築させていく。</p>

形特別委員会	<p>1. アスリート委員会への対応 アスリート委員会からの要望に応えるべく、事前にホームページ及びSNSで選考会の告知をし、5月2日に公開で世界及びアジア形選手権大会の選考会を講道館で行った。</p> <p>2. これから行われる形審査員試験及び研修会に於いて、MINDの活動を積極的に広める。</p> <p>3. 委員の取り組み 各委員の言を以下にあげる。「相手が子供であろうと受講生であろうと、上下関係の挨拶ではなく、きちんと対応している」「形の指導の中で礼法については、その内面(心)外面(動作)に言及している」</p> <p>4. 今後の取り組み 各委員の言を以下にあげる。「礼法の水準をより上げる」「道場での振る舞いを一般社会にも活かせるよう啓発する」「実施者は年齢立場ともに指導者であり、常に柔道修行者の範となることが求められる」</p> <p>以上のように、委員には十分認識が行き届いていると思われるが、さらに徹底して実践して行きたい。</p>
--------	--

平成 27 年度柔道 MIND 活動報告

大会事業委員会

本委員会においては、大会前の選手説明会において礼法の徹底、会場内の美化、観戦マナー向上の関係者への周知協力要請などと呼びかけた。また、大会会場に柔道 MIND 横断幕、ポスターを掲示した。

今後の大会においても同様の活動を継続していく予定。

日付	大会名	内容
4 月 4、5 日	全日本選抜体重別選手権	横断幕、ポスターの掲示
4 月 12 日	全日本カデ体重別選手権	選手説明会での呼びかけ、横断幕、ポスターの掲示
4 月 19 日	皇后盃全日本女子選手権	横断幕、ポスターの掲示
4 月 29 日	全日本選手権	選手説明会での呼びかけ、横断幕、ポスターの掲示
5 月 5 日	全国少年大会	横断幕の掲示

今後の予定（上期）

6 月 20、21 日	東アジア選手権	横断幕、ポスターの掲示
8 月 1 日	全国教員大会	監督会議での呼びかけ、横断幕、ポスターの掲示
8 月 2 日	全日本武道錬成大会	横断幕の掲示
8 月 8～12 日	インターハイ	横断幕、ポスターの掲示
8 月 17～20 日	全中大会	横断幕、ポスターの掲示
8 月 30 日	全国小学生学年別大会	監督会議での呼びかけ、横断幕、ポスターの掲示
9 月 12～13 日	全日本ジュニア体重別選手権	横断幕、ポスターの掲示
9 月 19、20 日	日本ベテランズ国際大会	横断幕、ポスターの掲示
9 月 22 日	マルちゃん杯全日本少年大会	横断幕、ポスターの掲示



平成 27 年度 アスリート委員会での「柔道 MIND プロジェクト」への取り組み

「全日本選抜体重別選手権大会・グランドスラム東京大会における委員会ブースでの柔道普及事業」の場においてアスリート委員から来客者やマスコミに対して柔道 MIND プロジェクトの主旨となる礼節・自立・高潔・品格といった柔道精神の周知や普及を行う。併せてポスターなどの掲示物を張り出し大勢の来場者の目に触れる機会を増やす取り組みを行う。

